

# 北海道小学校長会 結成60周年記念式典 会長挨拶

平成29年12月18日



本日は、皆様ご多用の中、北海道小学校長会結成60周年記念式典にご出席いただき、心から感謝申し上げます。

式典の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日、ご来賓といたしまして、北海道教育委員会 教育長 柴田達夫様、北海道中学校長会会長 古谷雅幸様、北海道特別支援学校長会会長 宮崎真彰様をはじめ、教育関係諸団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様方のご臨席を賜ったことに、厚くお礼申し上げます。

さて、北海道小学校長会は、今年度、昭和32年の発足から結成60年目を迎える節目の年となった。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、半世紀を超えて活動を行ってきた。

発足前夜の歴史をひも解いてみると、戦後間もない昭和22年には、全道各地において、各市の校長会が設立されていたことが分かる。昭和24年には、既に、それぞれの市で研究会を開催していた。戦後間もない混乱期に、研究会を開催された当時の校長先生方に対しては、尊敬の念に堪えない。

そして、昭和28年には、第5回全連小北海道大会・札幌大会が開催された。47都道府県の中で、5番目に研究会を開催したことは、大きな功績と言えるのではないか。そうした中、「都道府県単位での加盟しか認めない」という全連小の方針を踏まえ、各市校長会などが合併を決議し、北海道小学校長会が発足することとなった。

その後も、様々な教育改革や社会情勢の著しい変化、政治の渦などに巻き込まれながらも、先輩校長一人一人が、北海道教育の向上のために、ご尽力くださった。私ども現役の校長は、このような歴史の重みを、活動の至るところで、ひしひしと感じている次第である。今後も、素晴らしい伝統を引き継ぎ、努力を積み重ねていく所存である。

各学校においては、平成32年度から完全実施される新学習指導要領の円滑な実施に向けて、社会に開かれた教育課程の推進、指導体制の整備、校内研修などに取り組んでいる。

その一方では、今日、学校が抱える問題は、複雑化・多様化しており、いじめ・不登校などの生徒指導上の問題への対応、貧困・児童虐待などの課題を抱えた家庭への対応など、様々な課題が山積している。

私たち校長は、こうした教育改革や教育課題に立ち向かっていかなければならない。時代の変革期を迎えている今だからこそ、これまで以上に校長会の果たすべき役割が大きくなっていると言える。

このような中、今年度の道小は、5月8日に総会を開催して活動をスタートさせた。会員数 1,046 人という全国有数の大所帯ではあるが、年々、統廃合により学校数が減り、20年前に比べると 500 人余り減少している。今後の組織の在り方が、大きな課題となっている。

本年9月には、道小教育研究宗谷・稚内大会が開催され、大きな成果を収めた。全道校長の半数以上が集う研究の場において、教育の現状を語り合い、北海道教育の質の向上に向けて、研鑽を積むことができた。この教育研究大会は、私たち道小の根幹を支える活動と捉えている。私たちが学校経営を行っていく上での大切な糧となっている。

来年度は、函館市において、第70回全国連合小学校長会・教育研究協議会北海道大会が開催される。道小会員の英知を結集して、大会を成功に導きたいと考えている。大会の開催は、組織の活性化や一体化を促すものと確信している。

このような道小の活動に対しては、今後とも、北海道教育委員会をはじめとした教育関係諸団体の皆様方、道小諸先輩の皆様方からのご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

結びになるが、北海道小学校長会の結成60周年を契機に、道小の活動をますます充実・発展させていくことをお約束するとともに、本日までご出席いただいている皆様方のますますのご健勝をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。